



## 今年もかれんに

5月下旬、取立山の山頂付近で、ミズバショウが純白の姿を見せました。平成18年豪雪の影響で、例年より2週間ほど生育が遅れていましたが、雪解け水の流れ込む湿地で数千株がかれんに咲き誇っていました。訪れた登山者は、カメラや携帯電話で撮影しながら、疲れを癒していました。ミズバショウはサトイモ科の多年草で、白い花のような部分は苞と呼ばれ、実際の花は黄色く棒状の部分に密集しています。

取立山は登山経験のないかたでも気軽に登れる山として人気があり、この日は金沢や名古屋からも登山者が訪れ、山頂から眺められる白山や中腹にある大滝も楽しんでいました。



かれんな花を咲かせるミズバショウ

## さつき展開催

勝山市の花であるさつきを展示した「さつき展」が5月27日、28日の両日、教育会館で開催されました。

今年は寒暖差が激しかったためか、花を付けたさつきは例年の半分程度となり、主催したさつき愛好会からは「見に来てくださった皆さんには寂しい思いをさせてしまった。」とのことでした。しかし、展示されたさつきの盆栽は、愛好者の思い入れが伝わるほど丁寧な手入れがされており、見事な花と枝ぶりで訪れたかたを魅了していました。さつきは6月中旬頃まで美しい花を十分に楽しめるこの季節です。

会場には、さつきの苗木や盆栽の他に山野草の即売、さつき作り相談コーナーなどが設けられ、行き交う人たちは愛好会のかたの話や

聞くなどして、思いのさつきに見入っていました。



市の花さつきに足を止める来場者

## カブトムシの幼虫を求めて

晴天に恵まれた5月14日、「カブトムシの幼虫と恐竜の化石発掘ツアー」が、長尾山総合公園で開催されました。市外から、えちぜん鉄道に乗り、総勢48名の親子づれの参加がありました。

勝山駅から貸切バスに乗り、公園のティラノサウルス広場で降りた参加者らは、勝山ネイチャークラブ（会長：松山信治さん）から、カブトムシの幼虫の探し方についての説明を受け、幼虫入れ容器を肩にかけ、シャベルを片手に持ち、先を急ぐように林のほうへ移動しました。

朽ちた木の中からクワガタやコガネムシの幼虫を発見したり、堆積した枯草の中からカブトムシの幼虫を掘り当て「見つけた。」と大声で叫ぶ子など、林の中は熱気に包まれました。

参加された親も、童心にかえり子どもと一緒に幼虫探しに夢中になっていました。

松山会長は、「自然の姿をつかんで、親子共々何かを感じ、学んで帰って欲しい。」と自然と戯れる親子を眺め、感慨深げでした。



幼虫探しの親子づれ

## タケノコ掘りに挑戦

5月14日、長尾山総合公園で自然観察会が行われ、親子連れを含め20人ほどが参加しました。「わくわく体験学習推進隊」会長の小林則夫さんが講師を務め、竹と木の違いやタケノコの成長の仕方、竹の中には何が入っているのか、昼と夜ではどちらが良く成長するのかなどの問題に、参加した子どもたちは興味深く聞き入っていました。

その後、タケノコ掘りに挑戦。園内の竹林にはあちこちでタケノコが顔をのぞかせており、待ちわびた子どもたちは、お父さんやお母さんの力を借りながら、スコップやクワを使って30センチほどに成長したタケノコを一所懸命に掘り起こしました。そして、大きなタケノコを手にして「採れた。」「大きい。」と笑顔で答え、大事そうに抱えていました。

自然観察会は10月まで毎月第2日曜日に開催されており、勝山の自然を気軽に楽しめます。詳しくは市自然体験・スポーツ課（☎内線491）まで。



協力してタケノコを掘る親子

## 薩摩琵琶の弾き語りで

### 宮沢賢治作品を味わう

平泉寺の婦人グループ「いしだたみの会」（会長…松本知子さん）と平泉寺公民館が主催となり、林洋子さんの薩摩琵琶弾き語り「なめとこ山の熊」が5月27日に平泉寺公民館、28日に市立図書館で開催され、両日で百人以上の参加がありました。この演目は、一昨年の熊騒動に因んで、選ばれました。

この演目の他に、文語詩「巨豚（きよとん）」の朗唱では、観客が「キョトン、キョトン」と合いの手を入れるなど、和やかな雰囲気になりました。

また、公演終了後に、参加者のかたが薩摩琵琶に触れ、林さんから弾き方を教わる場面もありました。国内外で千回以上も宮沢賢治作品の一人語り活躍をされた林さんは、「宮沢賢治は、この世の全ての命はつながっていることを、作品を通して問いかけているので、私は語りによって聞く人に伝えたい。」と弾き語りを語ってくれました。

市内の女性は、「平家物語の琵琶の弾き語りを想像していましたが、平易なことばなので、琵琶の音を聞きながら、話に集中でき満足しました。」と感慨深い様子でした。



薩摩琵琶を奏でながらしみりと語る林さん

## 初夏を満喫、疾走！

6月4日、長尾山総合公園を起点として「サイクルフェスタ in 勝山2006」が開催されました。法恩寺山「中の平小屋」をゴールとするヒルクライムでは、県内外から178人が参加し、招待選手でアトランタオリンピック代表の安原昌弘さんら8人を交え、初級者から上級者まで初夏の緑の中を疾走しました。コースは全長17.4km、高低差730mでほとんどが上り坂ですが、参加者は日頃鍛えた力を発揮し、力強くペダルを漕いでいました。

また、当日は初心者向けの「はじめてサイクリング」や、勝山の名所やグルメスポットを巡る「エコツーリング」が行われました。エコツーリングでは、大判焼きやイチゴ狩りなどを楽しみながら、勝山駅や平泉寺などを巡り、約200人の参加者が自転車での市内散策を満喫していました。



勢いよくスタートするヒルクライム出場者